（二十四日夕刊）

休刊　第一・第三日曜大祭日
定價　一ケ月　一部二錢　郵税十五錢
廣告料　壹行六十錢　指定十錢均
福島縣平町田町十六番地
發行兼編輯兼印刷人　蓮沼龍輔
發行所　磐城新聞社
電話五六四番

啓蒙記（其一）

福島將夫變じて福田將夫なる妄者に與ふ

島田忠夫

□

予が先ごろ『磐城新聞』にて福島將夫君の文章を難じたるに對し、福島將夫なる名によつて二十一日夕刊から駁文を書いてゐる。これは姓を異にして同一なる妄者であるらしい。

たゞそ福田なる妄者のゐる境程度の那邊にあるかを物語つて悲慘なるは、彼は予が指摘したる論の中心に觸れては一言も發し得て居らぬ。例へば彼が『詩南車』（中略）詩人が數多く出るの産出が寒暖即ち氣候の一派および宮田青波君を嘲罵せる不遜なる態度に對し予が難詰せるも、彼は臆病にも筆先をへしまげ、新たに三野、高潮、松本などの諸氏の名を拉し來つて、いはば助けを求むる如き甘えを乞してゐるのである。大方如上の諸氏もひんしゅくされてゐるであらう。

さらに哀れむべきは次ぎの諸點である。曰く『詩南車』新年號を觀し（觀るに曰く云つて己が不明を裏書き（中略）詩欄に活躍してゐる詩人達全部が無名詩人の集合』とうそぶいてゐる。これに反して『一九三〇年』誌がつひこの間産聲をあげたが未だ内容が充すべてが貧しい（中略）私達は多大な期待をかけなければならない云々』と明かに『一九三〇年』の廻し犬の役を引受けてゐる。しかし恐らくは賢明なる『一九三〇年』の諸同人は彼の愚昧なる北海道犬々のみはしやすまい。自ら名乘り出たる廻し犬に外なるまいから。――『一九三〇年』期待をかけるなら『詩南車』に期待をかけられ私道理はない。こゝでも福田なる妄者の狹量を語つて餘りあるであり嗤ふべきである。

□

次ぎに福田將夫なる妄者は『島木赤彦』認めず一言用ひ『福田君は私が平

の詩歌人をあげつらつてゐる（中略）それは君の腦髓のもうてんであり云々』と云つたる『もうてん』なる語義である。誰れかこの詞意を知つてゐるであらうか。異常なる文法的教養（？）ある福田君はさらに次ぎの如てゐるのを知られやう。彼は予の文を稱して『拾ひ云々』の言は賢明なるさきに予の文を讀まれ記したる文章そのまゝ用ひ

而非歌人である。尤も福田如きは眞實の歌人でも何でもない。況んや啄木を讀むとも甚だ心細しとせねばならぬ。大方『啄木全集』でも出てから、あわてゝ飛び込んだ、池に落つる蛙の如き圓本歌人に外なるまい

繼いで彼福田は『一寸した歌人に一日でも二日でも

し諸君は、福田が予の先日なるさきに予の文を讀まれ

碧考へれば考へる程不利に詰まり行く迷蒙の日▲四線　目上の同情ある日謙遜なれば更に實入あり▲五黄と、あれ程固くた約束申し氣に緩みを生ずる時は事物停滯間違ひも生ず▲六白　遠き先を見越しての計畫は違算あり易き日▲七赤　高遠の思想も凡夫の考へに如かず進むは凶▲八白　着實に本業を守り投機業に手出しせぬ樣注意▲九紫　思ふ事は成り行く事は順に運ぶ盛運日なり

講談

幕末奇傑高山彦九郎（50）

中西洋々作
布施長春畫

同志の家（八）

あとに、部屋に殘つたのは彦九郎唯一人、待つ間程なく、廊下を歩く音も荒く

云ひつぎました

『先日、蛤御門で御面會の御貴殿をお訪ねいたすでございらうが、拙者、柴田殿ではございぬ』

『やゝッ、何と仰せられる』

ひこ九郎は、流石にあはてました

てつきり、向ふはしば田主計で押し通して來るものと思ひ定めて居りましたのですから、それでは芝居にならないではないかと今更愚痴言つてみても致し方ありません。

『それでは拙者を欺かれま

面を染めて

『實は、も早お氣付きでもございらうが、拙者、柴田殿ではございぬ』

ひこ九郎は、流石にあはてました

てつきり、向ふはしば田主計で押し通して來るものと思ひ定めて居りましたのですから、それでは芝居にならないではないかと今更愚痴言つてみても致し方ありません。

『それでは拙者を欺かれま

したのぢやな』

『如何にも』

佐三郎は少しく反抗的な語調で

『今考へて見れば、重々濟まなかつたと思ひ居りますが、何分早速の場合』

『うむ、なに意恨あつて、あざむかれたのぢや』

ひこ九郎が殺氣だつてかうつめよつたときでした

『高山氏、しばらく』

云ひ乍ら奥の襖をあけてしば田主計が入つてまゐりました

この部屋に案内されて來た

――このまゝ、柴田主計で押し通すか、すればそれは危險この上もない、現在柴田の家に居るのであつてみれば、いつ眞物の主計が出て來まいものでもないだが、今更自分の口から先日の言葉は嘘であつたなどとはどうしても云ひ得ない務めが務めであるだけ、まかり間違つたことを口外しては役目の落度、不面目此の上もない。

どやかくと考へれば益々心が亂れて來ます。が、そこは役目もつ身の大膽さまかり間違へばこちらは幕吏といふ强味がありますから思ひきつた芝居もうてます

『いや、それを仰せられば拙者穴でもあらば入りたい心地』

『さて』消ねも入りたげに

あやまり、字句を理解せず論爭する敵の文章言辭をつのるまにか『まんちやく』のは、まがゝ方なき、先の文日の僞主計、飯岡佐三郎用した

『たゝ、これは〳〵』

彦九郎は仰山な表情で迎へられました

『お暇りでございまするか』

『うむ、やはり、高山氏で』

佐三郎は、その場に突立つたまゝ言葉荒く呼びかけました

『如何にも』

彦九郎は莞爾と笑つて『た約束に依り、彦九郎貴殿をお訪ね申しました』

『うゝむ、なんと？』

佐三郎はかすかに狼狽の色をみせて問ひ返しました

『いや、お忘れでござつたよな』

佐三郎は、少しく呼吸を整へ

『うむ、やはり、高山氏で』

『如何にも』

彦九郎は、冷然たる相手

『いや、それを仰せられば拙者穴でもあらば入りたい心地』

『さて』消ねも入りたげに

云ひつぎました

『先日、蛤御門で御面會の御貴殿をお訪ねいたすでございらうが、拙者、柴田殿ではございぬ』

『やゝッ、何と仰せられる』

ひこ九郎は、流石にあはてました

てつきり、向ふはしば田主計で押し通して來るものと思ひ定めて居りましたのですから、それでは芝居にならないではないかと今更愚痴言つてみても致し方ありません。

『それでは拙者を欺かれま

したのぢやな』

『如何にも』

佐三郎は少しく反抗的な語調で

『今考へて見れば、重々濟まなかつたと思ひ居りますが、何分早速の場合』

『うむ、なに意恨あつて、あざむかれたのぢや』

ひこ九郎が殺氣だつてかうつめよつたときでした

『高山氏、しばらく』

云ひ乍ら奥の襖をあけてしば田主計が入つてまゐりました

白馬の雪
芳醇無比
松本德一吟釀
平電話七五二

共濟病院　各科專門
耳鼻咽喉科　醫學士　井上俊次郎
醫學博士　渡部貞助
産婦人科　醫學博士　松枝茂
外科　醫學士　桂氏家憲
醫學博士　重介
內科　醫學博士　難波睦
醫學博士　中西林藏
醫學博士　光線
醫學博士　技師　工藤慶造
衞生試驗所　醫學博士　中西林藏
技師　小熊英夫
藥局　藥劑師　吉本孝平
本院醫事法制囑託　法學士　岡崎治
本院主管　賀澤忠治

一衞生試驗所
一病氣相談所
一救療所
（共濟病院內）
共濟病院は皆さんの病院であります
御氣付のことは御注意を願へます

◎看護婦見習募集　磐城共濟會　平町電話六四一番

貸地廣告
平町郡役所より稅務署附近の新開地に五百餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絕對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極ぐ安値にお貸しいたします
御希望の方は電話なり葉書なり御相談に應じます
小名濱商事株式會社
平出張所　電話五四一番　六〇三番

ヒケタ醫油
平町田町
特約店　廣瀨支店
電話五四番

毛糸編物講習
生活改善は衣服から
消費節約も衣服から
發育盛りの小供には
毛糸編物が第一
夜間輕便文化器の
編物を無料講習致して
居ます、どうぞ
御遠慮なく御出で下さい
平町田町　藤田女學校隣
ハシモトヤ糸店

夜診
胃腸　梅毒
內科　十二指腸病虫病　專門部
淋病　婦人病　皮膚病　專門部
內科　外科
松村性胃腸病科醫院
（平南町電話一〇七番）
療間

三井の店舗改築披露
福引大賣出し
金三圓御買上毎二福引券呈上
舊十二月廿日リヨリ
五日間
特等　江戸蒔繪壹枚
一等　九谷壹本
二等　本紡織壹反
三等　蒲團皮壹反
四等　風呂敷壹枚
五等　名入御手富貴壹本
御婚禮御仕度は……今
金解禁相場の大破格品を豐富に取揃へ廉價提供可仕是非御用命の程を
店舗改築披露として、金參圓御買上
毎に福引券呈上致します

サロンのバーには
何時も生ビールがあります
毎日變つた佛蘭西料理の御献立をして御座います
ドーゾ御試食を……
田町松月堂隣り
美味で評判のきもちよいサロン
電話三五二番
男、女給仕人數名募集

營業種目
內地材
材木各種、羽柄材各種
建築諸材請負
礦山用坑木其他諸材請負
外材部
米松、米杉、大角製材調達請負其他
佐藤材木店
常磐線平町新川町
電話三三五番

平町田町
高久病院
電話五一三番
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹菊雄
內科、小兒科、
外科、花柳病科、
耳鼻咽喉科、
レントゲン科、

動力使用
最新獨逸式製材機取付
製板製材並びに諸建築用材一式請負
迅速―叮寧―安價
平町仲町
增尾木工場
增尾甚市郎
電話四六九番

特賣!!
福島縣清酒品評會一等賞受領
たひら正宗
花春
同優等賞受領
醬油釀造元
鹽屋
山崎合名會社
電話一〇番

石城郡各町村で明年度豫算緊縮

小學校の學級減を出來るだけその方針

豫算削減から石城郡の各町村は明年度にいて先づ小學校の出來得る限りの學級級となす事に内定した模様を減じ様と過般の町村長會で假に經費が一學級八百圓で協議をなした結果目下それ〳〵詳細に亘つて調査をなすと共に校長學務委員と町村當局間に具体方法を構て最も手近てあり相當これじてをり我れ行き注目されてゐるが先づ平町では現在觀られる第一第二併せて六十六學級あり何れも一學級七十名を限度としやむも得ざる場合は八十名まで一室た收容し得る事となつてゐるが實際上五十名位が多く可成り整理の餘地があるので大体四學級を減じ第一第二共二十五學級となす模様で目下協議中である

植田町學級減　植田町でも大体にいて現在十七學級中三學年は三學級に分割しあるのでこれを二學級となし一學級を減ずる事となす模様で目下協議中である

五學級宛新築さるゝ第三學校に十二學級都合六十二學級となす事に内定した模様であつて削減する事が出來るので見當と觀て三千二三百圓から削減する事が出來るので實狀の許す限りは財源とし最も手近てあり相當これに倣ふ町村が多いものと觀られる

平町の明年度豫算各費目から削減

編成に頭を絞る當局の苦心

平町では緊縮方針に依る明年度豫算の編成に當つて個年度豫算の編成に當つて個によつて緊縮をなし豫算の削減をなすかについて相當頭を惱ましてゐる巷間に傳へられてゐる學級整理による敎育費の削減等もその一方法であると見られてゐるが敎育費の一部削減位で豫算の緊縮は到底出來得ないので結局各費目からそれ〴〵削減をなし强ては吏員の整理と云ふ處まで進むものと豫想されてゐた、二十二日同町役場では土木書記山崎金作を解職する旨發表したがそれは第一回の整理にあつて引續き二三名の吏員が淘汰されるものと言はれ吏員は戰々恟々としてゐるが伏見町長以下幹部級の吏員は何れも緊縮豫算の編成に頭を絞ぼつてゐる

父の金を拐帶して

逃走平署に捕はれ說諭

茨城縣新治郡中岡町字片岡六一〇矢口德太郎四男正男(八)は去る二十三日午後三時頃に父親の金二十圓を懷し北海道に高飛し大いに働かうと幼な心にも何か考へる所あつて飛び出したが父親の急報によつて平署では早くも平驛に掛員を出張させて警戒してゐた處ろまんまと午後八時十分着の下列車に乘込んでゐたのを發見されて平署に同行され諄々と說諭の後父親の元に送り歸したと尙原因其の他深く取調は行なはなかつたが家庭の不和からであるらしい

平町の電燈値下げ愈々街燈を撤廢

廿六日夜から町内暗黑か

昨日區長會で決議

平町電氣料値下の具體的運動方法を協議決定する、區長會議は二十三日午後三時から町會議事堂に開催、平町會の實行委員をべんたつし更に强硬に交渉せしめることゝなり更らに左記事項を決議して實行に移す事になつた

決議事項

一、電氣事業は須く之を町營とする事は一般の認むる所なるを以て同盟會は町當局並に町會に向て之が促進實現を期する樣努力する事

二、本會の要求事項は蠶糸町會の議決したる要求事項と同一事項とし尙左の一項を加ふること

『瓦斯の最低使用料金及同メートル使用料金を參廢する事』

三、一般に出來得る限減燭並に撤廢する事

四、鐵柱街燈は二月十五日限撤廢する事

但各關係區相互に連絡一齊に之をなすこと

五、各區の街燈は二月十五日限撤廢すること

但し鐵道線路以北は其の區の協議により相當加減することを得

六、決議事項實行に關し贊成者の調印を求むること

各區長並に各區委員分擔

寒冷の襲來と種々な暖房裝置

ガスストーブは危險一般御家庭に注意

大寒に入つていよ〳〵寒くなりましたが老人や子供のある家庭は特に室内の暖房裝置に注意して家庭を居心地よい樂しい暖かいものにしなければなりません、暖房裝置にも色々ありますが一般家庭に廣く使用されてゐるものを申しますと次のやうです。

○

最も衛生的なものはストーブ類であります、それには電熱を利用するものや、木材などを燃料として用ゐるものもありますが、そのうちは電氣ストーブであります、これならば有毒ガスの發生やほこりのたつやうなことはありません、ガス、石油、石炭、木炭、木材などは衛生的な見地からみてみな殆と同じやうなものであつてこれらの燃料を使用する時はいろ〳〵のガスが發生しますがその内でも最も危險なのは不完全な燃料によつて發生する酸化炭素であります。

○

その中毒は、これら暖房裝置のもとあつかひや不注意から起ります、よく寢室のガスストーブの火を細くしたまゝ眠る人がありますが、これなどは最も危險でありまして火が自然に消ゆた爲めガス中毒を起した例は稀ではありませんストーブに次ぐものは炭火でせうが、これは日本の家庭で一番廣く用ひられてをります、番廣く用ひられてをりますが、ガスを使用する時はけれども不注意の場合にはガス中毒を起しますその側に寢た人が翌朝死んで發見される例であります。

○

次にガス中毒について申しますとまづ酸化炭素中毒の始めはめまい、頭痛、嘔吐、戰慄、食鹽水の注射を行ふとかします。

○

最後に暖房裝置に對する注意として申上げたいのはこれらの裝置が適當に調節されたことであります、無暗に温度を高めさへすればよいやうに考へてゐる人もありますが、これは實に危險なことゝ一面甚だ不經濟であり、又頗る不衛生でもあります、普通華氏の六十五度ならば充分であるが六十五度ならば充分であるが六十五度を越さぬやうにすればよいのです。

○

またストーブ炭火を使用する時は、室が乾燥しますから湯氣をたてゝ終始適當の溫度を保やうに心がけねばなりません、又火鉢の火などでも一度室の外で炭ケ虛脫が起こります、かやうに重いガス中毒で倒れた人が發見した時は、まづ新鮮な空氣を供給することが第一であります、また酸素吸入をして呼吸がとまつて居れば人工呼吸をせねばなりません、この外皮膚につよい戟刺を與へるとか食鹽水の注射を行ふとかします。

○

最後に暖房裝置に對する注意として申上げたいのはこれらの裝置が適當に調節つぎ、充分たこつてから室内に運ぶやうに細心の注意をすれば衛生的であることは申すまでもありませんそして空氣の濁らぬやうに換氣についても氣を注がねばなりません。

醉漢

平署に拘留

今朝大目玉

磐城郡大久村大字大久杉本正太郎(五六)は昨二十三日午後五時頃平町三丁目ゆらの眼朦朧として千鳥足で町内を歩行し自動車は止る子供は驚ぐ仕末に、たちまち黑山の人出となつたが當の杉本さんは大元氣唄や舞の夢の國の眞最中平署員に逮捕され一日冷たい拘留に處せられ今二十四日夢のさめた處を平署員に大目玉を頂戴されたとしを〳〵として歸宅した

墓口を窃取して

平署に御用

好間村大字上好間村山下佐藤チヨ三男實(三)は去る三日午前十一時頃隣家の佐藤修吉の不在の隙を窺ひしのび入り現金二圓五十錢在中の墓口を窃取したる事發覺し昨二十三日平署員に逮捕された

磐城炭礦のカルタ會

磐城炭礦從業員から出來て居るカルタクラブでは來る二十九日午後五時から綴職員クラブで開催するが參加可能者は同礦從業員並に其の家族にかぎると

清き一票の行使者

石城郡下で三萬九千

最も多きは内郷村で

最少が澤渡玉川

來る二月二十日の總選擧清き一票を行使し得る石城郡下の有權者數は合計三萬九千八百六十五名で内最も多きは内郷村の五千三十九名平町の四千二百九十八名で最も少ないのが澤渡村で二百九十三名玉川村の四百九名等で各町村別に見ると左の如くである

泉	七三九
植田	一、〇六五
錦	六七九
上遠野	九二〇
貝泊、荷路夫	九五〇
貝泊、石住	五三四
夏井	七一四
豊間	
鹿島	三八五
玉川	四五九
湯本	二、四六三
好間	二、一五五
永戸、窪田	七六五
三阪	四九九
草野	八七〇
四倉	一、四一三
渡邊	四一七
山田	六四四
勿來	一、四七四
入遠野	八三八
川部	七一二
平	四、二九八
飯野	六三七
高久	五〇一
江名	一、〇八一
小名濱	一、六七七
磐崎	一、八二三
内郷	五、〇三九
赤井	一、三四九
澤渡	二九三
神谷	六八七
大浦	八七八
大野	八一三
上小川	下小川八三五
平窪	六四〇
川前	六一四
合計	三九、八六五

競爭猛烈な濱の木炭選擧

二月一日執行

四倉町議三郡木炭同業組合の代議員選擧は來る二月一日執行と決定したが代議員定數は左の通りで双葉、相馬二郡山手方部では立候補多く競爭激甚である

石城廿九名、双葉廿五名
相馬廿六名

四倉町の

暮市は明日

四倉町暮市は明廿五日字仲町表通りに開かれるが人出度かの四千二百九十八名平町の四千二百九十八名で最も少ないのが澤渡村で二百九十三名玉川村の四百九名等で各町村別に見ると左の如くである

大野駐在に電話架設

四倉署より大野村巡査駐在所に通ずる電話架設に付きては既報の通りであるが此程完成し去る廿一日より通話した

極貧者に對する切なる心盡しも

不景氣の爲め手が出ない

舊暮の人事相談所

不景氣緊縮と云ふ叫びに慄ひ上つたのが最近平人事相談所に寄附する者は甚だ僅少であつたが昨日は風向變はつたのか平町三丁目久野ヒサ未亡人並に同町平館々主松田卯次郎氏から各三十圓の寄附があつたのでよろこびの意を表しながら平署某員は次の樣に語つてゐる

同署管内には約六十名の極貧者があり舊正月も近ずき早くも二十五日頃から問らかの救濟方法を講じてやりたひが今年は寄附が甚だ少なひので一人一圓内外の割當では誠困まち松田久野兩氏如きは屢々公益事業や救濟事業に對して御盡力下だされ敬意の極であると

七大炭礦が勞務課長會議

常磐七大炭礦福島、古河、入山、磐城、三井、大倉、大日本の勞務課長會議は去る二十三日午前十時から湯本町松柏館に於て開催され後東京健康保險組合本部から臨席された大西醫學博士の優益なる講演あり終つて新年慰勞會を宴した

植田町磐東銀行で五十錢の僞造發見

廿一日午後一時頃石城郡植田町郵便局より同町磐東銀行に預金すべく持參せる五十錢銀貨中に一枚の贋造銀貨あるを發見し直ちに返却されしに大騷ぎとなり植田署に屆出たが舊一錢銅貨にメッキせるものにて連類者ある見込で刑事課は活動を開始した

上遠野村火事防火に努めた鮮魚商が一ケ月の負傷

廿一日午前十時ころ石城郡上遠野村根岸高萩勘次郎裏手物置より發火し見〳〵猛火の爲同家屋を燃ね盡し隣家高萩重治方を類燒せしも組腕力ポンプに手傳ひ左藥指を押潰し早速同村田中醫師の治療を受けたが全治一ケ月を要するも其勇敢なる行動は同村消防組及村民から激賞されてゐる

四倉納稅表彰

石城郡四倉町役場では納稅思想普及のため同町の優良納稅組合並に優良稅納者の調査をなしてゐたが優良納稅組合關係者三百七十一名個人百六十七名合計五百三十八名の多きに達してゐる近く表彰式を擧行する由である

灌漑池問題解決

内郷村宮部落の石城郡内郷村字宮部落の灌漑用溜池は磐城炭礦の關係で大正五年以來涸渴し問題となつてゐたが今回同村乃木村長外五名の代表委員が菅原同礦業所長と交渉の結果妥協成立し炭礦側では字宮の耕作者に對し三千四百八十五圓を寄附することになつたので圓滿解決した同部落では右の寄附金を以て新に灌漑用溜池を新設することになつた

四倉人事相談所で貧困者救濟

四倉署人事相談所に於ては廿四、四倉町内貧困者四十名に對して一人宛白米四升金二圓、三圓、四圓と區別し分配幾分の救濟をなすと

四倉署の寒稽古

四倉署では去廿二日より一週間の豫定で寒稽古を開始したが尙一般劍士の稽古仕合を觀迎すると

傳染病の屆出を怠り罰金刑に

四つ倉町醫師鈴木宏(三)假名はジフテリヤ患者の屆出を怠り此の程平區から略式により罰金二十圓を言渡された

樋口氏出發

平署高等刑事として長らく勤務中の樋口氏は今二十四日平驛から任地郡山に向けて出發した

平町米相場

二十五日後　二十五日前

上白米	二一、五	二二、
中白米	二一、	二二、
並白米	二〇、五	二一、五
田糯	二四、	二四、五
陸糯	二三、	二三、五
搗麥	二〇、	二〇、
平麥	二二、	二二、

(但し單位は錢升目は研)

内科、小兒科
外科一般、婦人科
外科、梅毒、淋疾
皮膚病
平町田町本通
市原卯太郎
市原陸郎
市原三二男
市原醫院
(入院隨時)　電話一一四番

外科一般(入院隨意)
内臟外科專門
花柳病科
平町六丁目(橋際)
木村外科醫院
電話三〇九

金解禁後第一回入荷
澤山入荷致しました
どうぞ御用命の程を
尙當正月二日三日兩日は吉例により景品付大賣れしを致しますから多少にかゝわらず御買上を願ひます
御來店の方にはもれなく景品進呈
懷中時計
腕時計
掛時計
目覺時計
蓄音器
定格
工合良キ
保險付貴金屬も入荷
平町五丁目(釜屋前)
金光堂時計店
電話七三六番

新築落成
耳、鼻、咽喉科(專門)
氣管食道科
平町南町(舊診療所向)電一七〇番
大和田醫院
大和田郡司
自炊の便あり

美味にして強壮の効著大
血をふやし肉を肥やす
スツポン
スツポン飴　一圓　二圓
スツポン酒　二圓
スツポンヘモクロビン錠　三圓
平町五丁目角
山野邊藥局